

算数だより No. 6

北区立滝野川第二小学校 田中 一男

算数と道徳

— 道徳教育との関連 —

1 はじめに

今回の学習指導要領の改訂で、初めて「道徳教育との関連」という内容が解説書に載りました。

従来も道徳教育は、学校の教育活動全体を通して行うものでしたから、格段に変わったわけではありません。

しかし、今まではその内容をわざわざ解説書に載せることはしていませんでした。それほど今回は重要視しているということです。

2 算数科でどんな道徳教育を行うのか

解説書には、「学習活動や学習態度への配慮」「教師の態度や行動による感化」「道徳的判断力の育成」「工夫して生活や学習をしようとする態度の育成」が挙げられています。

(1) 学習活動や学習態度への配慮

算数科では、子供たちの多様な考えを取り上げます。友達の考えが未熟であったり、説明が分かりにくかったりすることもあるでしょう。そのようなときに教師は、子供たち全員に対して、笑ったりけなしたりすることを絶対にさせません。人の話をよく聞くということ、それが道徳教育だと思ふのです。一人一人の考えを大切にするという雰囲気づくりこそが教師の配慮です。

(2) 教師の態度や行動による感化

一人一人の考えを大切にすること、常に実行するのは大変なことです。

例えば、教師が期待していない考えが出てくることがあります。そのようなとき、「よく考えたね。では、他の考えはありませんか。」と言うことがあります。これは、「(この考えは困るな。早く次の考えを取り上げなくては…)」という思いが見え隠れします。また、「すばらしい考えだけど、今は難しいからあとで考えてみよう。」と言うこともあります。(今はとにかく切り抜きたい…)という思いが見え隠れします。どちらも一見褒めているようですが、考えを切り捨てているのです。

そのような教師の態度や行動では子供たちにより感化を与えることはできません。子供たちの考えのよさに目を付けて、「○○を図で表したところがよいですね。」「分かりやすく説明しよう、頑張っていましたね。」「みんなが知らないことも知っているのですね。すごいです。」などと、具体的にまとめていく教師の力量が求められるのです。それが道徳教育だと思ふのです。

(3) 道徳的判断力の育成

算数科は、見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるという特質があります。すなわち、日常の事象をどのように数学的に処理するかは、道徳的判断力を育成していることにも通じます。

例えば、根拠を基に、正しいと思ったことをやるということは、算数科でも日常の生活でも同じことが言えるでしょう。どのようにしてけんかになり、これからどうするかなど挙げればたくさんあります。

(4) 工夫して生活や学習をしようとする態度の育成

数理的に考えることは、生活や学習に大変役立ちます。

例えば、給食や掃除当番を公平にやるには、仕事を洗い出し、表を作って振り分けます。この考えの基は、2年生から学習しています。算数科で学習した事柄は、人の和を図っているのです。

3 1・2の歌

さて、思いこんでいたことが、よく考えると実は違っていたなんてことがあります。道徳教育では、このようなことをよく取り上げます。

そこで、算数に関して、子供たち向けではないのですが、大人向けに歌を作ってみました。自分たちの赤ちゃんを目の前にして、幸せに過ごすひととき—そんな風景を思い描いてみました。

1, 2の歌

1は 小さな 数だよ なんて
思っていたなら それはまちがい
地球は 一つ 宇宙も一つ
同じ1でも 大きいものがある
まして君は この世の中で かけがえのない
大きな大きな 1なんだよ
たとえ離れても いつまでも どんなときでも
君は大きな 1なんだよ

2は たいした 数では ないと
思っていたなら それはまちがい
だって君が この世の中に 生まれたわけは
パパとママとの 二人の愛
きっと君はいつか気が付くよ 大きくなって
だいじなだいじな 2のことを
きっと君はいつか気が付くよ 大人になって
大きくだいじな 1, 2のこと